

令和3年度 輪之内町立仁木小学校 自己評価書

学校の教育目標	ひろい心もち 豊かに表現できる子
経営の重点	・学校の教育目標の具現に徹する学校経営 ・一人一人のよさを引き出し、生かし、伸ばす意図的・継続的な指導・支援の推進 ①学級経営（心身のケア） ②学習指導（学びの担保） ③安全教育（感染症対策） ④道徳教育 ⑤家庭・地域との連携 ⑥働き方改革 「ひたむきに取り組む姿を徹底して褒める」

評価基準 A(3ポイント)：実践し、効果をあげることができた。
 B(2ポイント)：実践し、一応の効果をあげることができた。
 C(1ポイント)：実践し、僅かだが効果をあげることができた。
 D(0ポイント)：実践したが、効果をあげることができなかった。

町の重点	評価の窓	教員評価ポイント	評価	昨年度評価ポイント	昨年度評価	2学期までの成果	来年度以降の課題と改善策
【学校経営】 全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営 地域との連携による学校づくり	80	A	77	B	<ul style="list-style-type: none"> ○日課の見直しを図ることで、教材研究や事務処理の時間を確保し負担軽減につながった。 ○働き方の見直しを適時行い、残業時間を減らすことができた。 ○例年より残業時間が減っている職員が多い。 ○担任以外の職員が、人手が必要な授業の補助、朝の検温や消毒、給食の準備等いろいろな雑務をして、担任の負担がかなり軽減した。 ○コロナ対策について予防方法の共通理解を図り、共通行動ができた。 ○地域の見守り隊や総合学習の講師など、地域の方をお願いして協力していただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■地域学校協働活動の充実をする。コロナ禍でも工夫して、地域との関わりを大切にしていこう。 ■次年度にも使うことができるようにデータ等で資料を残し、確実に引継ぎができるようにする。 ■残業時間を管理職が正しく把握する。
【研修】 自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	学校教育目標実現に向けて資質向上を図り、組織的・継続的な研修の実施	76	B	65	B	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な研修を通して、学校経営について、生徒指導の仕方、授業展開の工夫について学び、学んだことを少しずつ取り入れながら実践することができた。 ○ICTの活用など研修が定期的であり学ぶことができた。 ○部研や全研などのふり返りは短い時間の中で充実した話し合いができた。 ○オンラインによる研修に参加する機会が増え、専門的な知識を学ぶことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■現職研修内容の精選する。 ■研修で学んだことを活かして、個々の指導力を上げていく。 ■ICTに関しては研修を生かしつつ、とにかく使い、慣れていく必要がある。 ■ネットワークの安定化とセキュリティ・ブロック面が確実になるようにしてほしい。
【教科指導】 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	71	B	63	B	<ul style="list-style-type: none"> ○感染防止対策を行いながらも、ペア交流をできる限り行いながら、自分の考えを発表したり、仲間の意見を聞き、深めたりすることができるようになった。 ○ICTの効果的な活用の仕方を考えながら、児童が自分の考えを表現し、交流に生かすことができた。 ○外部講師やオンライン授業の機会が多くあり、できる範囲で実感もてる学習をすすめることができた。 ○基礎的・基本的な知識・技能を習得するために、タブレットを適宜活用することができた。 ○個の実態に応じて、特別支援学級においての個別指導と、交流学級においての一斉指導を意図的に組んで学習活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■Withコロナの学習活動、学習方法を確立させたい感染防止対策を行いながら、交流の場の工夫をさらにしていく。 ■最低限の教材の準備で大きな効果(児童の力)になるような工夫をする。 ■タブレットを活用した授業の記録を、簡単にどこかに残しておく方法を考える。 ■算数での知識・技能の時間の反復練習や、思考・判断・表現の時間の交流・追究の仕方等を確実にもてるような授業展開にしていく。 ■時数と必要な活動のバランスを考えていく必要がある ■町研に向けて、仁木小らしい授業提案ができるように研究を進める。
【道徳教育】 自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	生き方についての考えを深める特別の教科道徳の充実	69	B	73	B	<ul style="list-style-type: none"> ○他校の先生の授業(VTR)を参観することで、道徳の授業のあり方を学ぶことができた。 ○道徳の授業を通して、児童が自分自身の日常生活と比べて発表したり、ノートに書くことができるようになった。 ○年間計画をもとに、それぞれの価値を大切に授業を行うことができた。 ○道徳で学んだことを、日常生活の中で生かせるように意識して指導ができた。 ○外国籍の児童やコロナハラスメント、不登校児等に対して偏見を持たず、思いやりのある関わり方が子どもたち同士できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■適時、担当から放送を通じて啓発する。
【外国語教育】 外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫	73	B	76	B	<ul style="list-style-type: none"> ○町非常勤講師による外国語の専科とALTによる指導により、より専門的に学ぶことができた。 ○歌を用いたり、シールでポイント制にしたりと、英語に親しみやすい工夫があった。 ○ALTの先生の話から、異国との文化の違いを感じることができた。 ○英語の歌を歌うなど、楽しく学ぶ機会が多かった。ALTの先生の言葉を聴くことで正しい発音にを身につけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■今後も、専科による授業を継続する。
【総合的な学習の時間】 探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。	「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実	76	B	67	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校外学習が少しずつ再開され、地域について学ぶことができた。 ○地域の外部講師による出前授業を位置づけることで、郷土の伝統や文化について興味をもつきっかけとなり、より深い学びを得ることができた。 ○5年生の「お米プロジェクト」で田を実際に経験することで、重労働であることを体験し、また当たり前の食事が当たり前ではなかったことに気づくことができた。 ○副読本「わのうち」を活用し、授業を進めることで、資料集めの手間を省いたり、輪之内の学習についてより深く学ばせたりすることができる。 ○総合の時間以外にも、給食食材に輪之内町の食材が使われるなど身近にふるさとを感じる経験ができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ■外部講師の積極的活用をする。 ■学習をしていく中で、何を学ばせるのかははっきりさせて取り組んでいきたい。 ■どの学年も次の担任にどんな内容かや、どの講師に連絡すればいいか引き継げるように資料に残す。 ■残していくもの・内容について精選する。 ■スクールサポーターを募集して地域のお年寄りに来ていただけるとうい。
【特別活動】 所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実(QU検査の活用)	78	B	71	B	<ul style="list-style-type: none"> ○委員会活動や行事を核に、学級の自治力の向上に生かすことができた。 ○QUの結果を見て、人間関係や集団としての関わり方について学び、特に心配な児童には、声かけをするように心がけることができた。 ○QUの2回検査だけでなく、夏の講習によって、その後のクラスの指導のあり方が学べた。 ○良いこと見つけがどの学級も位置づけられている。教室の後ろに良いこと見つけがたくさん掲示されており温かみのある学級集団を感じ取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■2回目が終わった後に、今後の課題を見つけて実行していく。 ■単学級であるため、前学年の時点で委員会を決定しておく。 ■自己肯定感が非常に低い児童もいるので、仕事内容や達成目標の設定などを配慮し、できたことを認められるようにする。

町の重点	評価の窓	教員評価 ポイント	評価	昨年度評 価 ポイント	昨年度 評価	2学期までの成果	来年度以降の課題と改善策
【生徒指導】 共感的な児童 生徒理解に徹 し、よりよい人 間関係の形成 を図り、自己 指導能力を育 てる。	児童生徒理解の深 化を図り、教職員 と児童生徒との信 頼関係の構築	78	B	75	B	<ul style="list-style-type: none"> ○問題行動や不登校傾向などは、報告連絡相談を密にして、組織で対応することができた。 ○不登校傾向の児童に対して、全職員で関わりながら対応ができています。 ○心のアンケートを計画的に実施し、その都度教育相談を行うことで、児童理解を図ることができた。 ○それぞれの担当が早期報告をしたため、その都度管理職の呼びかけでケース会が適切に行われ、重大な問題行動・不登校につながらずにすんだ。 ○日常の会話や観察から子どもの変化を捉え、組織的に対応や支援ができた。 ○生徒指導交流をこまめに行いにより、共通理解する場が設定されていたので交流しやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■授業の中だけでなく、休み時間も児童と積極的に関わる。 ■無記名アンケートの事後指導の仕方について考えたい。(クラスへの指導など) ■問題が起きた際は、素早く対応に当たれるように、どのように指導していくのか、具体的な指導の仕方を明確にする。 ■登下校指導の方法を見直す。(回数・抜き打ち等)
【キャリア教育】 社会的・職業 的自立に向け て必要な基盤 となる資質・ 能力を育て る。	勤労観・職業観を 育成する体験活動 の位置づけと事 前・事後指導の充 実	71	B	60	B	<ul style="list-style-type: none"> ○社会見学・校外学習・出前授業の実施により、実際に働く人の姿や話などから、勤労観・職業観を学ぶことができた。 ○「仁木輪ピック」などの行事や総合学習を通して、進んで働くことの大切さを指導することができた。 ○当番や係活動、委員会活動等を通して、責任をもって働くことの大切さが実感できるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ■成人年齢引き下げに伴い、消費者教育や主権者教育をより充実させていく。町住民課の協力のもと、来年度も継続して消費者教育を行う。
【健康安全 教育】 運動に親し み、進んで健 康で安全な生 活を営む態度 を育てる。	自ら命を守りきる 防災意識を向上さ せるための指導方 法や指導体制の工 夫改善	76	B	75	B	<ul style="list-style-type: none"> ○年間計画に沿って、いろいろな想定での命を守る訓練を継続的・計画的に実施ができた。 ○感染予防対策を徹底するように、心がけることができた。 ○新型コロナウイルスの対応で検温や手洗いの徹底、登校時の消毒等をし意識が高まった。 ○給食は、感染症予防に努めながら、配膳ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自らを律しながら自己の命、仲間の命を第一に考えて行動できる力を身につけさせる取組を増やす。 ■事後指導だけでなく、全校朝会等で統一して事前指導する機会があるとよい。 ■今後も感染対策を徹底し、児童が健康で、安全に生活できるように心がけていく。 ■命を守る訓練の行い方を見直す。(回数・内容・時期・見届け方等) ■家庭でのメディアの使用の仕方について、家庭と連携して指導する。
【特別支援教育】 一人一人の教 育的ニーズに 応じ、自立し 社会参加する ための基盤と なる力を育て る。	特別支援教育コー ディネーターを中 心とした校内支援 体制づくりと合理 的配慮の構築	82	A	69	B	<ul style="list-style-type: none"> ○非常勤講師や支援員のきめ細やかな関わりのおかげで、落ち着いた学習に取り組める児童が増えた。 ○特別支援学級担任と交流学級担任との連携をとり、児童の実態にあわせながら交流の学習が進められている。 ○コーディネーターや指導教諭などを中心に、親身になって支援のあり方について考えることができた。 ○通常学級における配慮を必要とする児童に対して、適宜ケース会を開いたり、スクールカウンセラーを活用したりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■コーディネーターの仕事内容を明確にする。 ■来年度に向けて、引き継ぎ資料の作成をする。
【人権教育】 自他の大切さ を認め、互い に人権を尊重 する望ましい 人間関係を醸 成する。	児童生徒と全教職 員が一体となっ たいじめや差別 を許さない学校・学 級づくり	80	A	79	B	<ul style="list-style-type: none"> ○人権担当から人権に対する全校への働きかけがあり、差別は許さないという意識を高めることができた。 ○DVDから人権について学び、一人一人が自分や友だちを大切にしなければいけないと考えることができた。また、放送で他学年の児童の感想を聞き、全校が一体となっていじめをなくそうと考えていることが感じられた。 ○企画委員会による「ぼかぼかはがきプロジェクト」で、お互いのよさを認め合い、温かい人間関係を築くことにつなげることができた。 ○いじめや差別につながる事案があるとすぐに対応、指導ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ひびきあい集会に向けての活動はできたが、年間を通して(学期1回程度)取り組みを計画的にすすめるとよい。
【ICT教育】 児童生徒の情 報モラルを高 め、情報社会 に対応できる 情報活用能力 を育てる。	I C Tを有効活用 した学習活動の充 実	80	A	83	A	<ul style="list-style-type: none"> ○情報活用能力は育ってきている。研推長や情報主任が主になって、ICTの情報発信しているの、学級担任も積極的に活用しようと取り組んでいる。 ○昨年度までより、いろいろな授業で、児童がタブレットを活用することができた。 ○算数の授業では、児童用デジタル教科書を活用し練習問題を自分で答え合わせをしたり、評価問題を配付・回収し評価したりできた。 ○タブレット、プロジェクター等の機材が非常に充実しており、有効な活用の仕方について考え、実践することができた。 ○ICTの活用方法について研修し、授業などに生かせるように努力した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■家庭と協力して情報モラルを高める。 ■物(タブレット)を大切にしている指導を徹底させる。 ■児童用タブレットの授業での活用の仕方について、さらに工夫改善を考えていく必要がある。 ■タブレットスキルを身につけたり、使う場面を吟味したりして、 ■ネットワークが遅く、特にZoomや動画再生のとき影響があった。(モバイルルーターで対応したが、ルーターにも限度がある) ■新しい使い方や中学でどんなことを行っているか研修・交流ができるとよい。
<p>〈学校関係者評価〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍であるが、全校で毎朝の健康観察等、健康安全教育によく取り組んでいる。 ○児童の行動や気持ちの変化に対して、教員同士の交流が見られる。 ○休み時間の様子から、先生と子どもたちの交流が多くあった。特に先生からの声かけや子ども同士の誘い合いが温かい言葉とともに見られるものである。 ○室内の整理がされており、資料等がうまく学習に役立てられている。 ○低学年の児童の姿を見るとICTに対する関心とタブレットを大切に扱う姿が見られる。 							